

周波数ひっ迫対策のための国際標準化連絡調整事務 平成26年度事前評価結果

(5点満点)

案件名	実施期間	主な評価コメント	評価
戦略的な国際標準化に向けた先進的技術の動向把握のための国際機関等との連絡調整事務	H26～H27	<ul style="list-style-type: none"> ・提案の主旨は、国際標準化に対する先手を打った対応を目指すものであり、是非とも必要な案件と言える。 ・周波数の利用拡大にともない、ITU-R以外の地域機関や特定分野の機関、IEEE等の民間機関での活発な標準化活動把握が必要である。 ・技術開発の方向性が混沌としている今日の状況を考えると、何がキーとなるかを早く捉える／見出すことが重要で、その意味で本提案は我が国にとって有益であり、その成果が大いに期待される。 	4.4
406MHz帯を利用した次世代衛星ビーコン通信技術の国際標準化に関する調査	H26～H30	<ul style="list-style-type: none"> ・急速な増加が予想される遭難ビーコンの周波数を有効利用するための標準化活動であり、必要性は十分にある。また、実施計画も具体的であり、実施期間、体制、予算も妥当である。 ・技術試験事務の検討内容を国際標準化に繋げる案件であり、かつ具体的に提案しようとする内容も明確になっており、我が国の国益上からも必要かつ有用性の高い案件である。 ・海上関係の国際標準化は特に継続が重要で、寄書の提出や審議参加の積み重ねが標準化に繋がる。その意味で大いに期待したい。 	4.0